

# 報告案件（1）令和7年度バス利用の状況等について

## 1 豊田市基幹バス（とよたおいでんバス）の利用状況

（1）令和7年度豊田市基幹バス12路線の総利用者数 2,712,766人

（2）路線ごとの利用者数推移（R1～R7） ※（ ）内は前年度比増減率

路線名	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	R7/R1 増減率
藤岡・豊田線 (加納経由)	101,129 (▲3.3%)	72,067 (▲28.7%)	80,371 (11.5%)	87,550 (8.9%)	99,071 (13.2%)	100,747 (1.7%)	99,982 (▲0.8%)	98.9%
小原・豊田線	194,027 (▲3.5%)	135,549 (▲30.1%)	151,015 (11.4%)	162,714 (7.7%)	175,687 (8.0%)	189,753 (8.0%)	191,384 (0.9%)	98.6%
藤岡・豊田線 (西中山経由)	110,809 (▲4.6%)	83,536 (▲24.6%)	97,077 (16.2%)	103,931 (7.1%)	107,534 (3.5%)	97,340 (▲9.5%)	101,729 (4.5%)	91.8%
旭・豊田線	96,804 (5.3%)	66,438 (▲31.4%)	77,424 (16.5%)	82,812 (7.0%)	90,742 (9.6%)	106,354 (17.2%)	109,751 (3.2%)	113.4%
稲武・足助線 (快速いなぶ含む)	33,737 (▲7.0%)	28,869 (▲14.4%)	31,833 (10.3%)	30,262 (▲4.9%)	29,014 (▲4.1%)	27,247 (▲6.1%)	30,584 (12.2%)	90.7%
旭・足助線	9,945 (▲2.1%)	8,910 (▲10.4%)	7,361 (▲17.4%)	7,639 (3.8%)	10,091 (32.1%)	12,436 (23.2%)	14,301 (15.0%)	143.8%
さなげ・足助線	201,409 (3.2%)	154,494 (▲23.3%)	175,456 (13.6%)	188,381 (7.4%)	209,328 (11.1%)	211,625 (1.1%)	225,269 (6.4%)	111.8%
下山・豊田線	202,903 (19.5%)	148,504 (▲26.8%)	165,233 (11.3%)	185,805 (12.5%)	206,673 (11.2%)	222,281 (7.6%)	228,499 (2.8%)	112.6%
保見・豊田線	390,631 (1.0%)	301,557 (▲22.8%)	330,013 (9.4%)	371,734 (12.6%)	404,732 (8.9%)	420,714 (3.9%)	418,774 (▲0.5%)	107.2%
中心市街地玄関口バス	79,633 (1.2%)	68,384 (▲14.1%)	69,584 (1.8%)	74,819 (7.5%)	79,423 (6.2%)	84,913 (6.9%)	73,003 (▲14.0%)	91.7%
豊田・渋谷線	227,891 (7.0%)	162,570 (▲28.7%)	176,293 (8.4%)	206,720 (17.3%)	228,196 (10.4%)	256,745 (12.5%)	269,229 (4.9%)	118.1%
土橋・豊田東環状線	992,101 (4.0%)	686,757 (▲30.8%)	737,262 (7.4%)	799,561 (8.5%)	887,535 (11.0%)	903,919 (1.8%)	950,261 (5.1%)	95.8%
<b>基幹バス 合計利用者数</b>	<b>2,641,019 (3.3%)</b>	<b>1,917,635 (▲27.4%)</b>	<b>2,098,922 (9.5%)</b>	<b>2,301,928 (9.7%)</b>	<b>2,528,026 (9.8%)</b>	<b>2,634,074 (4.2%)</b>	<b>2,712,766 (3.0%)</b>	<b>102.7%</b>

## 2 豊田市地域バス・地域タクシーの利用状況

（1）豊田市地域バス・地域タクシー14地域の総利用者数 213,548人

路線名	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
①高岡地域バス（ふれあいバス）	165,617	108,874	126,189	132,621	154,977	148,631	143,121
②松平地域タクシー	16,610	14,337	15,327	1,818	2,314	2,902	3,372
③水源東地域タクシー (令和2年度はタクシー化実証、 令和3年4月から地域タクシーに移行)	1,528	396	493	324	406	302	240
④保見地域バス	1,897	1,538	1,436	1,384	1,356	1,339	1,350
⑤鞍ヶ池地域タクシー (平成30年度はタクシー化実証、 平成31年4月から地域タクシーに移行)	758	557	1,086	1,061	1,440	1,564	1,185
⑥・⑦石野地域バス（さきゆりコース、 石野交流館コース） (つくばね地域タクシー：令和2年度はタクシー化実証、 令和3年4月から地域タクシーに移行)	1,728	1,596	1,801	1,946	1,845	1,699	1,524
⑧上郷地域バス（チョイソコにここバス）	8,879	6,427	5,612	4,156	4,665	4,279	4,308
⑨稲武地域バス（どんぐりバス）	7,065	5,930	7,656	7,818	8,010	8,358	8,696
⑩旭地域バス（旭コッキーバス）	3,059	2,035	1,906	1,950	1,767	1,777	1,662
⑪足助地域バス（あいま〜る）	5,906	4,452	4,113	3,802	3,807	3,806	3,716
⑫下山地域バス（しもやまバス）	9,063	6,095	7,235	12,806	10,951	10,542	9,641
⑬藤岡地域バス（ふじバス）	31,629	26,574	28,109	29,825	30,248	31,560	30,925
⑭小原地域バス（おばら桜バス）	4,429	3,371	3,361	3,574	3,493	3,501	3,808
<b>地域バス合計利用者数</b>	<b>258,168</b>	<b>182,182</b>	<b>204,324</b>	<b>203,085</b>	<b>225,279</b>	<b>220,260</b>	<b>213,548</b>

※地域バスの運行形態の変更（デマンド化・地域タクシー化）や、スクールバス機能の分離等により、過去の数値と単純に比較できない路線が発生している。

## 3 まとめ

（1）データ傾向及び分析

① おいでんバスの令和7年度の年間利用者数は、コロナ禍後初めて、コロナ禍前のピーク値（令和元年度）を上回った。社会経済活動の回復に加え、利便性向上に向けた取組が利用者の回帰を後押ししたと考えられる。

② 令和6年度との比較においては、中心市街地玄関口バスの利用が大幅に減少しており、特に定期券以外の利用者の落ち込みが顕著である。またバス停別に見ると、広路町及び豊田市バス停での降車が15～18%減少している。一方、旭・足助線は利用が大きく伸びており、特に定期券以外の利用増加が目立つ。バスの利用については、足助地区（一の谷口・足助学校下バス停）から旭地区（杉本バス停）への移動が増加している。

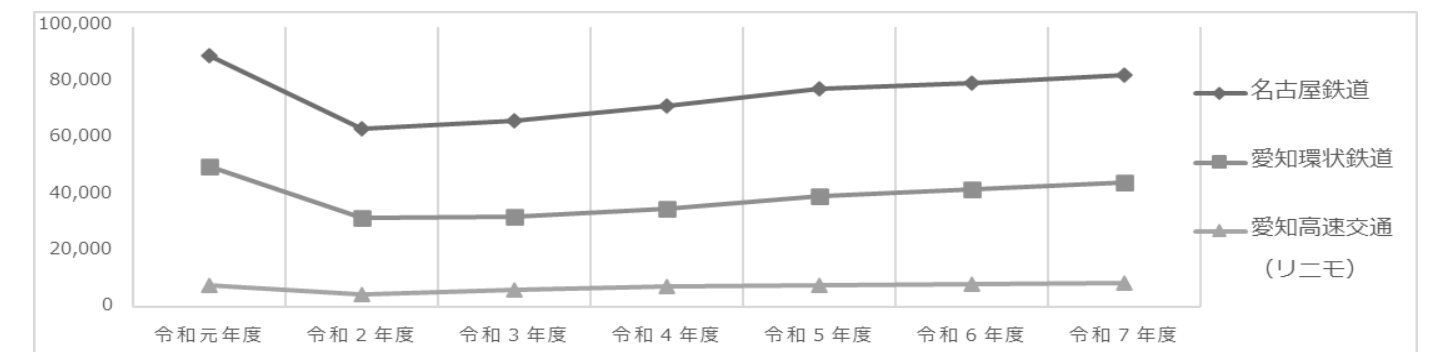
またおいでんバス全体としては、令和7年度に実施した高齢者及び子ども向けの利用促進事業に加え、高校生バス通学定期券購入費補助の効果もあり、利用者数が増加していると考えられる。

さらに、直近5年間（令和3～令和7年度）の傾向として、通学及び通勤利用路線では利用者数が毎年増加しており、安定的な需要の伸びが確認されている。

（2）総括

令和8年度に改訂した豊田市地域公共交通計画においては、『子どもや子育て世代の移動支援』及び『高齢者のおでかけ促進』を重点目標として掲げている。これらの方針に基づき、子ども及び高齢者を中心とした利用促進事業を推進し、利用者数の増加を目指す。また、地域の輸送資源の活用可能性を検討し、既存の公共交通との連携強化を進める。令和8年4月に実施したダイヤ改正では、他の公共交通機関との接続を意識した見直しを行ったが、一部路線において増減便が生じていることから、その影響による利用状況の変化についても注視していく。

### 【参考】豊田市内で運行している鉄道の1日平均利用者数（市内駅）について



## 4 豊田市駅バス停集約後の状況

（1）バス西口集約に伴う利用者の反応

（バスの利用方法、サインの見やすさ、バス待ちなど 利用者の反応）

- 豊田市駅西口へのバス停集約については、集約前から段階的に利用者への案内を行ってきたこともあり、現在のところ、利用方法や乗り場の変更に関して大きな混乱は生じていないものと認識している。
- 待機列の明示や誘導サインの設置などにより、利用者が乗り場を確認しやすい環境を整えており、安全で円滑な利用につながっていると考えている。
- 今後も、西口集約後の利用状況や利用者動向を注視していく。

（2）豊田市駅東口のバス利用の変化

- 一部の利用者から、これまで東口で降車していたが西口まで回ることによって所要時間が延びたこと、一つ手前の豊田市駅東バス停で降車する場合に以前より歩く距離が長くなったという意見あり。
- 豊田市駅東バス停の供用開始からあまり期間が経っていないこともあり、利用動向を十分に把握できる段階には至っていないが、令和8年4月中旬の利用状況として、豊田市駅に向かう「上り」では、豊田市駅東バス停で降車される方と豊田市で降車される方が半数ずつであり、また豊田市駅を降車する「下り」では、豊田市バス停からの乗車割合が9割であり、豊田市バス停の利用が多い。